

最優秀賞論文

小学生向けの学年別学習雑誌にみる 女の子と男の子

淵 上 愛 子

要 約

本論文は、小学生を対象にしている学年別学習雑誌にみられる、女の子が好む傾向の内容、男の子が好む傾向の内容がどのようなものであるかを比較する。また、女の子と男の子がどのように描かれているのかということ考察する。これらを10歳前後の女の子に焦点を当てて進めていく。考察の結果、「女の子」と「男の子」にはさまざまな違いがみられ、それぞれの性別で興味があることや、好まれる内容には特徴があるということが言えた。また、友人関係の築き方の違いなど、人間関係における性別ごとの特徴などもみることができた。そしてこれらの違いの中には、しばしば女の子はかわいらしく、守られる存在、男の子は強くてたくましいというジェンダー・ステレオタイプがみられるものもあり、それをもとにして描かれた内容のものがこの学年別学習雑誌には多くみられる。また、女の子向け、男の子向けの両方の内容を盛り込んでいることで、女の子も男の子も読むことができ、性別による極端な読者の偏りがなくなると言えるだろう。

はじめに

現在、書店には小学生向けの雑誌やマンガが数多く並んでいる。それらの中に、今から80年以上前に創刊され、現在もなお、発行され続けている学習雑誌がある。その雑誌は、1922年8月8日に相賀武夫によって設立された「小学館」

から発行されている『小学一年生』『小学二年生』『小学三年生』『小学四年生』『小学五年生』『小学六年生』である。これらの雑誌は、出版業界初の学年別学習雑誌であり、最初に創刊されたのは『小学六年生』と『小学五年生』であった（「Shougakukann online」）。この雑誌は、1年生から6年生までの学年別に発行されているという点が、他の雑誌とは異なり、特徴的な点である。内容は、小学校への入学から中学受験までの小学生の学校生活や日常生活、またそこにおける人間関係に関する事、国語や算数などの学習、芸能人、スポーツ、ゲーム、マンガ、アニメ、玩具などいろいろあり、多くのことを学習できる。また、月刊誌であるため毎月最新情報が掲載され、雑誌の内容からその時代の背景なども読み解くことができると思われる。

さらに、この雑誌のもう一つ特徴的なところは、他の小学生を対象にした雑誌、例えば、『少年ジャンプ』『コロコロコミック』『コミックボンボン』は比較的男の子が多く読んでおり、『りぼん』『なかよし』『ちゃお』『別冊マーガレット』は、比較的女の子が多く読んでいるというような、読者の性別による極端な偏りがなく、女の子にも男の子にも読まれているというところである。このように、学年別学習雑誌が、女の子にも男の子にも読まれている理由は、それぞれの性別が好むであろう内容が、一緒に掲載されているからではないだろうか。では、女の子が好みそうな内容と、男の子が好みそうな内容とは、一体どのような内容であろうか。また、その二つの内容の間に、共通点や異なる点はあるのであろうか。本論文では、学年別学習雑誌の、女の子が好む傾向の内容、男の子が好む傾向の内容が、どのような内容であるかとともに、その中で女の子と男の子はどのように描かれているのかということと、10歳前後の女の子に特に焦点をあてて考察する。

分析の対象としたのは、現在小学館が発行している学年別学習雑誌『小学一年生』『小学二年生』『小学三年生』『小学四年生』の2005年6月号、7月号、8月号、9月号と『小学五年生』『小学六年生』の5月号、6月号、7月号、8月号、9月号と2004年度の『小学五年生』で連載され、本年度も連載が続い

ている『ないしょのつぼみ』の単行本である。また、各学年についているふろくも考察の対象とする。

1. 女の子向け・男の子向けマンガの違い

まず、各学年で全体のページ数のうち多くの割合を占めているマンガについて検討した。この雑誌の特徴的な点は“女の子が好みそうなマンガと、男の子が好みそうなマンガを一緒に掲載している”というところである。本論文では、主人公の性別に基づいて女の子向けか男の子向けかを判断した。読者はしばしば物語の主人公の姿と自分とを重ね合わせ、感情移入する傾向がある。その場合、女の子は女の主人公、男の子は男の主人公というように、自分と同性の主人公のほうがより感情移入しやすい。このような理由から、女の主人公のマンガは女の子の読者が、男の主人公のマンガは男の子の読者がより好んで読んでいるのではないかと思われる。そこで、本論文では、主人公が女の子のものを“女の子向けマンガ”、主人公が男の子のものを“男の子向けマンガ”とみなす。このように、主人公の性別でマンガを分けてみると、いくつかの共通点とともに、主人公の性別によって明らかな違いが出てきた。

1) 女の子向けマンガ

まず、女の子が主人公のマンガについてみる。『小学一年生』と『小学二年生』では『オシャレ魔女・ラブ and ベリー』というマンガが人気であり、学年で物語の内容やストーリーの長さは異なるが(『一年生』は毎月5ページ、『二年生』は毎月9ページ)、主人公のラブとベリーは魔女という設定は同じである。主人公の二人は、ファッションやヘアメイクに大変興味があり、毎回オシャレな洋服が描かれたカードを使い、魔法を使っておしゃれで素敵なおしゃれな女の子に変身するという話である。さらに『小学二年生』では、ただ変身するだけではなく、二人でアイドルデビューを目指すという目標も加わり、その目標に向かって努力していく姿を描いている。また、『小学一年生』で連載している『ふしぎ星のふたご姫』というマンガでも、ファインとレインという名前の二人の

主人公が、魔法を使ってきれいなドレス姿に変身するという場面がある。この二つのマンガに共通するところは、第一に魔法などの不思議なパワーが使えること。第二に、その不思議なパワーを使うことで主人公たちはかわいらしく変身し、その変身した姿を見た周りの人々から高い評価を受けるということである。

次に『小学三年生』と『小学四年生』では『なないろ☆ミラクル』というマンガがある。これは主人公の女の子が、化粧や自分のファッションセンスを活かしながらモデルの仕事に挑戦し、そのなかで同性のモデル仲間との人間関係に悩んだり、憧れの男の子に恋をしたりするという内容である。このマンガでは小学生の化粧やオシャレなファッションは肯定的に描かれており、こうすればかわいくなれるというアドバイスを読者に伝えているように思える。また、このマンガを読んだことで、化粧やヘアメイク、ファッションに興味を持った人も多いのではないだろうか。

ここで、『小学一年生』から『小学四年生』までのマンガでの共通点と異なる点を考えてみる。まず、1年生から4年生のすべての学年で「かわいく変身する」ということが共通している。その方法は学年が上がるにつれ、魔法で変身するという非現実的な方法から、化粧で変わるという現実的な方法に変わる。また、単にかわいらしい姿に変わるだけでなく、それを評価してもらう場がある。モデルの仕事や、芸能プロダクションにスカウトされてアイドルになることである。もとの姿からきれいに変身し、それを第三者に評価してもらい、認めてもらうことで、マンガの中の主人公たちは自分に対して自信をもつことが出来るように描かれている。このような主人公たちに憧れの気持ちを抱き、自分も彼女たちのように化粧やおしゃれをすることでかわいくなれたり、自信がもてたりすると思い、真似をしようとする子どもたちも増えていると思われる。例えば、子供向け商品に力を入れている玩具メーカーのバンダイでは、2004年3月に発売した小・中学生向けの「コスメティックパーラー」がデパートやファッションビルに専門の売り場を持ち、週末は親子連れで賑わっている

という。2004年3月の発売以来、2005年1月までの10ヶ月間で5万個が売れ、好調だという（朝日新聞 2005年2月9日発行）。

次に、『小学五年生』、『小学六年生』の女の子向けのマンガでは、今までの1年生から4年生とは異なり、物語の内容にやや現実味が帯びてくるようになる。例えば、マンガの主人公が読者と同じ年齢の設定であったり、学校や塾での生活における人間関係を描いていたりする。それとは逆に、学年が下がれば下がるほど、マンガの内容は魔法が使えたりするなどの非現実的要素が多くなる。これは、読者たちの成長に合わせて徐々に現実の世界にも眼を向けさせようと促していると考えられないだろうか。さらに、『小学五年生』と『小学六年生』における女の子が主人公のマンガでは、ほとんどストーリーは「恋愛」に関するものである。「恋愛」に関するものとは、簡単にいうと恋する女の子、または男の子との人間関係と恋の行方を描いたものである。

マンガの内容を学年別にみると、児童期の後半、小学4～5年生のマンガには恋愛をテーマにしたマンガの連載が急に多くなることがわかった。それは、女の子が初潮を迎える時期とも重なっている。身体の変化と共に、急に色づき始め、性に対する興味をもつ時期とも一致するのである（横森, 1999）。そのため、男の子との恋の話が展開される恋愛をテーマにしたマンガを、好んで読むと考えられる。また、『小学五年生』に連載されている『デートでラブ・アタック No.1』、『しっぽでハッピー!!』、『おねがいっ!!ラブ・ルビー』、『ないしょのつぼみ』や『小学六年生』の『まなつ.ラブログ.jp 前編・後編』は主人公の女の子は徐々に自分が女であるということや、身近な男の子の存在を意識するようになり、ストーリーが進むにつれ、好きになった男の子に片想いをするようになっていく。自分が「女であること」をより意識してしまうのは、「男」という対象がいるからこそではないだろうか。

また、これらのような恋愛が描かれているマンガの中では、しばしば女の子はこうあるべき、男の子はこうでなければといったようなジェンダー・ステレオタイプが描かれている傾向があるように思える。『小学五年生』の7月号の

『Wデートでラブ・アタック No.1』というマンガで考えてみる。物語は主人公の葉月が同じクラスの大將に2年間片思いをしているという設定で始まっている。いつも葉月は、木の陰からサッカーをしている大將を、こっそり見ているだけで満足だったが、葉月の友達、まどかの強引なアドバイスによって、大將に告白することになってしまった。告白するきっかけとして、遊園地でデートをすることになったが、まどかはデートの前に葉月にアドバイスをする。「デートには何を着ていく予定？女の子はスカート姿の方が絶対かわいいの。デートは動きやすさより見た目重視よ！」というアドバイスだった。これは相手の男の子を意識しての行動であると考えられる。遊園地では活発に行動が出来るズボンをはく方が好ましいだろう。しかし、ズボンではなく、スカートをはくことで、より女の子らしい姿の自分をアピールし、「活発」というよりは「おとなしい」というイメージを与えさせ、男性に「今日の格好は女の子らしくてかわいいな」という感情を抱かせようとしているのだと思う。人はしばしば、魅力的な男性の前では女性は女らしいステレオタイプの行動をとり、魅力的な女性の前では男性は男らしいステレオタイプの行動をとろうとする。スカートをはくことも、ジェンダー・ステレオタイプを意識した行動であろう。結局、葉月はスカートをはいて遊園地に行くことにしたのであった。しかし、大將から特に格好についてのコメントはなく、女の子が思っているより、この年頃の男の子は、あまりオシャレや外見に興味がないように思えた。

2) 男の子向けマンガ

では、男の子が主人公のマンガはどうだろうか。男の子が主人公のマンガの多くは、「冒険もの」「対戦もの」「勝負もの」「推理もの」という内容であった。まず「冒険もの」とは、『小学五年生』の『ゼルダの伝説 ふしぎなぼうし』や『ライオンは眠らない』などの作品で、姫を助けに行くため、ある目的の物を手に入れるために、立ちはだかる敵に怖気づくことなく向かって行き、困難にも負けず、つぎつぎと新たな世界に立ち向かうというストーリーである。

次に、「推理もの」とは『小学一年生』から『小学五年生』の5学年に掲載されている『名探偵コナン』である。わずかな手がかりをもとに、主人公・コナンが、犯人の様々なトリックをあばき、大人顔負けの推理力で事件の真相を推理し、犯人をつきとめ、解決へ導くというストーリーである。1996年1月からテレビでアニメが放送され、人気のマンガである（「名探偵コナン」アニメ版公式ホームページ）。

次に「対戦もの」「勝負もの」では『小学一年生』から『小学五年生』に掲載されている『甲虫王者ムシキング』、『ポケットモンスター』や『小学三年生』のサッカーをする少年達を描いた『D（ダイナマイト）ストライカー空』、『小学四年生』の『がんばれドッジファイター』や『小学五年生』の将棋をテーマにした『マサルの一手！』などが挙げられる。

『甲虫王者ムシキング』は、森に住む妖精のポポという少年とムシキングと呼ばれるカブトムシが、遠い国からやって来た悪い虫たちから自分たちの森を守るために戦うというストーリーである。また、甲虫王者ムシキングは、町のゲームコーナーや、ゲームセンターに置いてあるカードを用いて遊ぶ甲虫バトルゲームにもなっている。「ムシキングカード」と呼ばれるカードには、甲虫のデータが入った「ムシカード」と、ムシをパワーアップさせる「ワザカード（打撃ワザ、投げワザ、はさみワザ）」があり、ワザカードをたくさん集めて、自分のお気に入りの甲虫を強くしていき、対戦相手と戦うというゲームである（「甲虫王者ムシキング」公式ホームページ）。

もう一つの人気マンガ『ポケットモンスター』は、人気携帯型ゲーム機「ゲームボーイ」用のゲームソフトでもあり、1996年2月の発売以来、販売本数歴代1位を誇り、ぬいぐるみや駄菓子などの関連商品も伴って、子ども世界のスター街道をばく進中であった（本田，1999）。ゲームの内容は、旅を続ける主人公のサトシがポケットモンスターと呼ばれる動物を捕まえて強く育てるというものである。旅をする遍歴の主人公という物語の定番と、出現するモンスターの「捕獲・採集」と「飼育・成育」、さらに、通信機能を駆使して友人と

の間に可能となった「交換」の要素、そして、相手との「戦い」という、「人気を生み出すための基本的な要素」がすべて組み込まれている（本田，1999）。

ここでポイントは、男の子が主人公のマンガには、このポケットモンスターだけに限らず、「冒険・旅」「捕獲・採集」「飼育・成育」「戦い」「交換」の人気を生み出すための基本的な要素のいずれかが、必ずつまっているということである。では、なぜそのような要素を含むストーリーが男の子向きであり、人気を生む基本的要素として考えられるのだろうか。伊藤（1996）は、男性たちの“男らしさ”へのこだわりを優越志向、所有志向、権力志向の3つの志向性にまとめた。「優越志向」とは、競争において勝利したい、他者に優越したいという心理的傾向、「所有志向」は、できるだけたくさんのモノを所有したい、しかもそれを自分のコントロール下に置きたいという心理的傾向、「権力志向」は、自分の意志を他者に押しつけないという心理的傾向である。男性には、これらの志向があるのではないかと考えられる。

そこで、マンガやゲームにおける「冒険・旅」「捕獲・採集」「飼育・成育」「戦い」「交換」の5つの要素を、上の3つの志向のうち、どれに当てはまるかグループ分けをしてみた。まず、「戦い」と「冒険・旅」の要素は優越志向に当てはまる。戦いで相手に勝つことによって、他者よりも自分の方が勝っていることが証明され、優越感に浸ることができる。また、冒険をしながら悪に立ち向かい、最終的に敵に打ち勝ち、姫を助け出すことは、悪に勝ったということになる。この「戦い」と「冒険・旅」の要素は『D（ダイナマイト）ストライカー空』『がんばれドッジファイター』『マサルの一手!』『ポケットモンスター』『甲虫王者ムシキング』『ゼルダの伝説 ふしぎなぼうし』のマンガで見られる。次に、「捕獲・採集」と「飼育・成育」と「交換」の要素は所有志向に当てはまる。例えば、ポケットモンスターを捕まえることは捕獲・採集であり、『甲虫王者ムシキング』におけるワザカードで自分の甲虫を強くしていくことが飼育・成育にあたるだろう。そして、友達同士で通信機能を使って遊んだり、ワザカードなどお互いに欲しい物を交換し合ったりすることが、交換にあ

たると思われる。この「捕獲・採集」と「飼育・成育」の要素は、主に『ポケットモンスター』『甲虫王者ムシキング』の中にみられる。また、「飼育・成育」は権力志向にもあてはまると考えられる。自分が持っているポケットモンスターや、お気に入りの甲虫は基本的に主人の言うことに従い、行動するからである。以上のことから、男の子向けマンガは、「冒険・旅」「捕獲・採集」「飼育・成育」「戦い」「交換」の要素を含んでおり、それは男性がもっていると考えられる「優越志向」「所有志向」「権力志向」の3つの心理的傾向に一致するものと考えられる。

2. 小学5年生に人気のマンガ『ないしょのつぼみ』

女の子向けのマンガで『ないしょのつぼみ』という人気の連載マンガがある。なぜ、このマンガが人気なのか。絵がかわいらしいという魅力もあるが、マンガの内容も関連しているのかもしれない。本論文で取り上げる雑誌は各学年の2005年の5月号から9月号であるが、この『ないしょのつぼみ』は2004年の『小学五年生』でも連載されており、そのとき連載していたものが単行本になっていたため、これも参考にしたいと思う。

まず、このマンガのタイトルについてだが、主人公の名前が「つぼみ」なので『つぼみ』という点は納得が出来る。しかし、『ないしょ』というのはい体何であろうか。それは、小学5年生の複雑な気持ちを表しているのだと思える。このマンガの内容は、主人公つぼみの母親の妊娠からはじまる。その後、クラスメイトから「お母さんが妊娠したのは、お父さんと恥ずかしいことをしたから（エッチをしたから）なので、みんなには言わない方がいいよ」と言われ、それからは妊娠したことを秘密にしようとする。そんな時、つぼみは初潮を迎え、友達もブラジャーを買ったり、性毛やわきの下に毛が生えたりして、みんな少しずつ大人の身体に変化していく。

このマンガは、そんな第二次性徴が発現して、心や身体に大きく変化が訪れる時期（このマンガの設定は小学5年生）における、他の人にはなかなか言え

ないさまざまな疑問や問題を、主人公たちが戸惑いながらも経験し、乗り越えていく様子を描いている。小学5年生の読者たちが実際に抱えている不安や悩み、問題などをわかりやすく教え、少しでも不安を取り除いたり、正しい性に関する知識を身につけてもらおうとしているのだろう。性に関することは、なかなか人には聞きづらいこともあって、自分一人の胸にしまいこんで内緒にしてしまう。そんな小学5年生の気持ちも表して『ないしょのつぼみ』というタイトルにしたのではないだろうか。

また、「つぼみ」という主人公の名前には隠された意味があると思う。「つぼみ=花を咲かせる前の段階」、つまり人間でいうと「大人になる前の段階=第二性徴」という意味ではないだろうか。このマンガが人気になった理由は、読者の小学5年生の現状をうまくとらえていたからではないだろうか。心も身体も不安定な時には、よきアドバイスをこのマンガはしてくれていたのかもしれない。だからこそ、このマンガは女の子の間で人気連載になったのであろう。

3. 各学年のふろくについて

基本的にどの学年にもふろくがついているが、学年ごとにふろくの種類も異なっている。1年生のふろくは全体的に大きく、主にキャラクターものが多い。特に甲虫王者ムシキング、シナモン、ポケットモンスターがデザインされたものが人気のようだ。また、全学年を通していえることは、男の子向けマンガのキャラクターのふろくは、対戦できるようになっているゲーム形式のものが多い。例えば、紙製の組立式ムシキングの対戦おもちゃ、ポケットモンスターのカードゲーム用のカード、甲虫王者ムシキングの全昆虫図鑑などがある。立体の機械装置を組み立てる作業をさせると、平均して男性の方が女性よりも成績がよく、ものを作るテストでも、平面で表現された設計図に合わせてブロックで何かを作る場合、男の子のほうが上手くできる (Simon Baron-Cohen, 2005)。そのため、男の子向けとされるふろくには、組立式のおもちゃが女の子よりも多くあるのだと考えられる。男の子向けのふろくのテーマは「組立、対戦、収

集」と言えよう。

一方、女の子向けマンガのキャラクターのふろくは手鏡・組立式のジュエリーボックス、ネイルシール、レターセットなど化粧に関するものや文具類が多い。また、メモ帳やバッグ、コインケースなど、実生活で充分活用できるものもあり、女の子向けのふろくのテーマは「ファンシー、実用品、小物」と言えよう。また、ふろくの全体の色を見てみると、女の子対象のものはピンクや赤などの暖色が多く使われており、男の子対象のものは青や緑などの寒色が多く使われている。女の子は、対戦することができる組立式のおもちゃやカードゲームよりも、ふわふわしていて、小さくて、かわいらしい小物やシールやメモ帳などの実用的なものを好み、男の子は相手と戦ったり、カードを集めて友達と競ったりするものが好きであるという出版社側のジェンダー・ステレオタイプが、ふろくを通して伝わってくる。

4. 女の子に特有の交換ノート

1) 交換ノートの実態

小学五年生の5月号に「愛と友情の交換ノート大作戦！」と題したコーナーがある。これは女の子の間で行われている交換ノートに関する事を、情報部員と言われる50人の小学生にアンケート調査を実施し、その結果をもとに作られたコーナーである。このアンケートの中で、交換ノートをしているかという質問では96%の子がしていると答えており、誰としているかという質問では“クラスの友達”“他のクラスの子”“姉妹で”という順番で多いとの結果が出た。ほとんどの女の子が交換ノートをやっており、理由として「ノートさえあればすぐ始められるし、気軽に楽しいから」ということが挙げられていた。また、ノートを交換する相手は身近な友達ということがわかる。ノートの交換は毎日であったり、2, 3日ごとであったりとグループのペースで異なるが、頻繁にノートの交換は行われる。そういった点で、交換ノートを行う条件として「身近な友達=渡しやすい」ということも日記を継続する上では重要な要素で

ある。情報部員たちも「交換ノートは回すほど楽しい」「他の学校の友達とは難しい」と言っている。また、情報部員の中には「アイドル系の子は、アニメの話よりドラマの事が多くて私にはとんちんかん」という意見をもっている子がおり、“交換ノートをするなら、同じ系統の子が長続きしそう”という意見が挙げられている。同じ系統の子とは、簡単にいうと「同じような趣味・興味・好み・考え方をもった人」のことであろう。同じ系統の子同士では、共通する部分が多く、またお互いが共感できることも多いため、すぐにお互いの距離が近くなり、仲良くなりやすいのではないだろうか。交換ノートをする理由に「気軽に楽しいから」という理由があったが、そのためにはメンバー選びもかなり重要になってくるであろう。このようなことから、交換ノートのメンバー選びにおいて「自分と同じ系統かつ身近な友人」がポイントになると思われる。

2) 交換ノートでは秘密を守ることが絶対条件

次に、「秘密厳守&男子対策座談会」と題したコーナーがある。ここで大事なことは、交換ノートの内容を、メンバー以外の他人に知られないようにすることである。なぜ交換ノートの中身を隠したがるのか。交換ノートの中身調査の結果では、主に学校のこと、噂や内緒話、恋愛話がかかれており、人前では言えない話を主にノートに書くようだ。座談会に参加した女の情報部員たちの話の内容がかかれており、それによると中身は知られてはまずい事だらけのようだ。例えば、「好きな人は誰？」という質問を含んでいるような好きな人に関する恋の話であったり（この話のことを“恋バナ”と彼女たちは呼んでいる）、「あの人は、あの人のことが好きらしいよ」などの噂話であったり、「あの男子ちょームカつく！」など嫌いな人に対する悪口の話であったりする。

そのような秘密の内容も含まれるため、最近では鍵が付いた交換ノートも販売されており、メンバー内で鍵を共有して使い、秘密を守る努力も行っている。しかし、この鍵付きのノートは付いていないノートよりも値段が高く、だいたい1000円から1500円するため、多くの小学生は100から500円前後の鍵が付いて

いないノートを買って使用しているのが現状のようだ。だが彼女たちは、安いだけでノートを選ぶのではなく、表紙のデザインや中に載っているコーナー（ラブ話コーナーや内緒話コーナーなど）にもこだわっている。「安さ」「かわいさ」「中身のコーナーの充実」がノート選びのポイントのようだ。また、キャラクターなどのシールがついているノートも人気である。この他にも、秘密を守るための道具として、一瞬で水に溶かすことができるシークレットペーパーや、銀はがしができるペン（消しゴムで簡単に銀で隠された部分がはがせる）もあり、秘密を守る工夫は今や多岐に渡っている。女の子たちのこのような努力の上に、彼女たちの秘密は守られているのである。そして、このように秘密を守ることで、お互いの信頼関係を深めている。

3) 交換ノートをしらない男の子

秘密を守るために、女の子たちはさまざまな努力をしていると前に述べたが、そんなふうに密かにノートを交換し合っている女の子たちの姿を目撃した男の子は、ノートの中身が気になっているようだ。コーナーの一部に男子の言い分として、男の子の心の内が明かされている。その内容とは、「ボくらだって（ホントは）交換ノートが気になるんだー!!」「女子がコソコソする程、興味シンシン」「女子の交換日記を奪って、男子トイレに投げたやつがいる」「～さんはバカ」とか“死ね”とか書く女子、怖すぎる!!」「興味ないフリしててもちょっと読んでみたい…」というものであった。このように、女の子が交換ノートのことでコソコソすればするほど、男の子は興味津々になるようだ。

では、なぜ男の子も女の子に対抗して同じように交換ノートをしらないのか。男の子たちの意見の中には、交換ノートの中身が気になるとは書いてあっても、「僕たちも交換ノートをしたい!!」という意見はない。この理由として考えられるもののうち、男の子の友人関係のあり方が挙げられると思う。男性は、たとえ同性の友人であっても、仕事や勉強、スポーツなど評価を受ける場面での競争相手としてとらえており、内面的な悩みなどを話したり、援助されたり

したのでは相手から低い評価を受けるのではないかという不安を感じる（佐野，1996）。つまり、男の子が同性の友達と交換ノートをしらない理由は、友達をさまざまな場面において、勝ち負けを意識する競争相手としてみなす傾向があるからだと考えられる。例えば、ライバルに交換ノートで悩みを打ち明け、自分の弱い部分を見せてしまったら、自分は弱い人間だと思われてしまう。競争相手に弱みを見せることはすなわち負けを意味し、勝つことから遠ざかってしまうという不安を抱く可能性がある。そのため、男の子は女の子のように、友人同士で交換ノートをしらない傾向があると言える。

4) 交換ノートの利点

さて、一つ疑問に思うのは、なぜいつも学校で会える友達同士で交換ノートをするのか。学校で会えるのならその場で会って直接話せばすぐに伝わるし、解決するだろう。しかし、あえてその場では喋らず、わざわざ前もってかわいらしい交換ノートを一緒に買いに行き、順番や決まりごとを決め、一人一人がノートに書き込み、交換し合うのか。一体、女の子たちがそこまで交換ノートという形でのコミュニケーションにこだわるのはなぜだろうか。

ここで交換ノートの利点は何であるか考えてみた。第一に、普段の学校生活において人前では話せない内容や、声に出していうのは恥ずかしいことを、文字にして相手に伝えることができる。いくら親しい友人関係であっても、なかなか面と向かって言い出しにくいこともある。そんな時、文字や絵で表現すると意外と伝えやすかったり、素直になれたりする。第二に、秘密をメンバー内で共有することができる。交換ノートはメンバー以外の人には内容を教えてはならないし、決してばれてはいけない。つまり、メンバーのみがその内容を知ることができるのである。第三に、一つの交換ノートを友達と共有して使うことで、より仲間意識、連帯感が生まれる。秘密の話であったり、ノートであったり、友達と同じものを共有している事で、自分はグループの一員である、一人ではない、たとえ今一緒にいなくてもこのノートによって常に繋がりが合っているのだという気持ちになる。

住田（1999）は、仲間との集団的遊戯活動という共同行為をとおして子どもは、仲間と同一集団に所属しているという一体感と、同世代であるための共通経験・共通思考から、相互に親密になって情緒的関係を形成し、「われわれ意識（we-consciousness, we-feeling）」を形成するようになり、これが仲間意識であると述べている。「交換ノートをやっていてよかったと思うことは？」という情報部員に対するアンケートでは、「友達から親友に変化した」、「悩み相談にのってもらって気持ちが楽になった」、「好きな人の情報がどんどんはいつてくる」、「ストレス発散できる」、「一人ぼっちにならないですむ」、「ケンカしてたけど仲直り出来た」、「クラスが違ってその子のことが身近に思える」、「悩み事を書いたらみんながアドバイスをいっぱい書いてくれた」などの意見が挙げられていた。交換ノートを通して、精神的な面もお互い支え合うことができるのである。

以上のことから交換ノートにはさまざまな利点があるため、女の子たちは“交換ノート”という形でのコミュニケーションに魅力を感じ、あえてこの形にこだわるのだろうと考えられる。しかし、秘密を守るのも、内緒話や恋愛話をするのも、すべては親友とより仲良くなりたい、より強く繋がっていたいからではないだろうか。Simon（2005）は、女性はお互いが利益を得るような友人関係を築くことを望み、親密さに価値を置き、その親密さを表現したがると言っており、女の子は友人との結びつきを強めるために相手に自分の秘密や悩みを教えたり、心配事や苦手なものを打ち明けたりすることが多いと述べている。つまり、交換ノートをする本来の目的はただ単に秘密話がしたいから、恋愛話が楽しいからではなく、今よりももっと友達と親しくなり、仲の良い仲間集団を形成するためだと考えられる。交換ノートは、女の子の友人関係の築き方の特徴を上手く取り入れたものであるため、男の子よりも女の子が多くやっていると考えられる。

5. 小学生のおしゃれと化粧に関して

全学年を通してファッションや化粧など、おしゃれに関する内容が多く見られる。特に女の子向けとされている内容が多く、取り上げられている数は、学年が上がるごとに増えている傾向にあるようだ。具体的にどのような内容か学年別にみていこうと思う。

①『小学一年生』

1年生ではふろくに「シナモン・ラブ and ベリーのネイルシール」というものがあり、これはシナモンとラブ and ベリーという二つのキャラクターが描かれたシールで、使い方はシールを爪に貼るだけでいいので、1年生でも簡単に爪のおしゃれが楽しめるようになっている（2005年『小学一年生』8月号ふろくより）。

②『小学二年生』

2年生では、女の子のTシャツの着こなし方を紹介している。着こなし方のパターンは「元気さ、ちょっと大人の気分になるようなクールさ、女の子のかわいらしさをアピールしたラブリーさ」の3つであり、テーマごとに着こなしを変える工夫をしている（2005年『小学二年生』6月号より）。また、読者がアンケートに応募することで商品がもらえるというコーナーでは、「ハートコスメセレクション」という名前の小学生向け化粧品のセット（ヘアブラシ、リップ、マニキュア、香水などが含まれている）や、ディズニーのキャラクターを爪にデコレーションできるネイルの機械（おもちゃ）が紹介されていた。

③『小学三年生』

3年生では、「ハッピー・ネイルアートに挑戦！」と題して、ネイルアートを紹介している。マニキュアの塗り方や、ネイル用のシールやストーンの使い方を写真で詳しく説明している（2005年『小学三年生』6月号より）。

④『小学四年生』

4年生では、「ななこと一緒にちょこっとネイル」と題して、『小学三年生』

と同様に、マニキュアの塗り方を紹介している。しかし、3年生よりもやや難しい塗り方のデザインが多く、グラデーションのように見える塗り方や、キラキラ光るラメを用いたデザインなど、よりワンランク上のネイルアートを紹介している(2005年『小学四年生』5月号より)。次に、「お出かけファッション」というタイトルで、読者モデルの女の子が薄っすら化粧をして、洋服、髪型、化粧を紹介しているコーナーがある(2005年『小学四年生』6月号より)。また、「かわいいななこヘア v.s.クールな三咲ヘア」というタイトルで、マンガの登場人物のななこと三咲がしている髪型と同じ髪型のやり方を紹介している。おしゃれなヘアピンやリボンの使い方も載っていて、小学生でも自分で髪型がセットできるように丁寧に、わかりやすく説明している(2005年『小学四年生』7月号より)。

さらに、7月号のふろくには交換ノートがあり、この中に、化粧のテクニクを紹介するコーナーがあり、似合うリップの選び方、コロンの上手なつけ方、ビューラーで目元をぱっちり見えるようにするやり方、マスカラでまつ毛を長くするやり方、ラメ入りマニキュアの塗り方、チークの上手なつけ方、アイシャドウの上手なつけ方、リップグロスのつけ方などが具体的に紹介されている。そして、9月号では「夏休みラッキー&メイク日記」と題して、読者モデルがマニキュア、コロン、髪型、リップグロスなどを紹介しているのもある(2005『小学四年生』9月号より)。

⑤『小学五年生』

5年生では、「ピンクファッション天国」という読者モデルが洋服を紹介するコーナーがあり、モデルの子は化粧もしていて、今までの学年の読者モデルの子と違う点と言えば、ブレスレットやネックレスなどのアクセサリーをつけていることである(2005年『小学五年生』5月号より)。また、「ヘアアレンジ・マジック」のコーナーでは、コテを使ってウェーブヘアに仕上げるなど、大人っぽい髪型を意識している(2005年『小学五年生』6月号より)。そして、「サマートップス・オンパレード」という夏のTシャツなどの洋服を紹介したコー

ナーでは、初めて男の子の洋服についても紹介していた。今まで、おしゃれに関するコーナーは、女の子のものしか紹介していなかったが、ここで男の子に関するものも取り上げられるようになった（2005年『小学五年生』7月号より）。

さらに、「水着ダイアリー」では、読者モデルの女の子が水着を着てさまざまな水着を紹介している。ビキニの水着やカラフルな色の水着など、たくさんの種類を取り上げていた（2005年『小学五年生』8月号より）。最後に、「大人気 歌姫メイク de 大変身」というコーナーでは、現在人気のある歌手（木村カエラ、クリスタル・ケイ、上戸彩、平原綾香）の髪型、洋服、化粧方法を紹介している。ここでは、アイシャドウ、アイライン、マスカラ、チーク、リップグロスなどの使い方が今までの学年で1番詳しく紹介されており、使用している化粧品も1000円以上のものがあり、大人が普段使用しているものと同じものを用いて化粧していた。より大人っぽくなるような化粧方法を用いているため、小学生にしてはやや化粧をし過ぎではないかと感じた（2005年『小学五年生』9月号より）。

⑥『小学六年生』

6年生では、「Chu・Putit」という中学生が中学生生活に関することを紹介するコーナーがあり、その中に中学生における化粧の仕方や、制服の着こなし方、髪型などが載っている。これは女の子と男の子の両方の内容が取り上げられている。このコーナーは毎月掲載されており、毎回異なったテーマでオシャレに関することが紹介されている。

以上のように、おしゃれや化粧に関する内容を学年別に挙げてきたが、特に化粧に関する内容が多いが、なぜこんなにも小学生の女の子が化粧に興味を持つようになったのだろうか。その理由については以下で考察していく。

1) 小学生の現状

最近では、小学生を中心とする女の子の嗜好は分散化し、早い時期から洋服、アクセサリ、化粧品に興味を持つなど、おしゃれやファッションに対する関

心が高くなってきている。そしてここ4、5年の間に化粧の低年齢化が起こっている。特に、小学校高学年（5・6年生）から中学生も含めた、ローティーンと呼ばれる年代の女の子たちの間で、化粧行動が広まっている（「ヨミウリ・ジュニア・プレス」）。最近の小学生の化粧では、小学校4～6年生女子の63%がマニキュア、29%が口紅を持っていて、登校前に鏡をいつも見る子は59%という結果が出ている（「Benesse 教育研究開発センター」2001年 ベネッセ教育研究所による東京・埼玉の小学4～6年生に行った調査より）。

2) 小学生の化粧ブームの要因

なぜ、このようにローティーンと呼ばれる若い世代の間における化粧行動が多く見られるようになったのか。考えられる要因をいくつか挙げてみる。

まず一つ目は、化粧ブームが起こる前に、彼女たちローティーンを対象とした雑誌において、化粧方法や化粧品の情報が掲載されたことが考えられる。2000年4月から始まった学年別学習雑誌の『小学六年生』に「はじめてなのにヘア&メイクの天才」という、アンケートで常に上位を保つ人気連載のコーナーがあり、それが小学生の化粧ブームの火付け役となったと言われている。現在でも、コーナーのタイトルは異なるが、同じように化粧や髪型、マニキュアなど、おしゃれに関する内容が多く掲載されている。

二つ目は、「モーニング娘。」やローティーン雑誌に登場するモデルなど、読者の女の子たちと同年代タレントたちの活躍の影響である。彼女たちに対して憧れの気持ちを抱くようになり、自分もモデルやタレントのようになりたいと思い、化粧を真似たりすることも考えられる。現在、『小学五年生』や『小学六年生』でも、多くの芸能人の話題がたくさん盛り込まれている。

三つ目は、大手玩具メーカーや化粧品会社による、小・中学生向けの化粧品の生産と販売であると考えられる。株式会社タカラでは、「Sweet Bambini」というローティーン向けのマニキュア、リップグロス、アイシャドウなどを扱う化粧品を販売している。価格も、ほとんどの商品が315円と低価格で、小中学生でも自分のこずかいの範囲内で購入できる価格になっている。また、百貨店

にはローティーン向け化粧品コーナーも設けられ、商品を自由に試用できるほか、メイクスタッフによる本格的なメイクアドバイスを受けることもできる。そこで売られているリップカラー、チーク、アイブロウ、アイカラー、パウダーなどの商品はすべて石鹸で落とせる仕様になっており、ジュニア世代に合った処方が工夫されている（「kirei-nandemo.com きれい・なんでも」）。大人は隠す化粧なので、油分が強いため石鹸では落ちないが、ジュニア世代は、いわゆる薄化粧のため、石鹸で十分に落ちるのだ。ここに、メーカー側の配慮が感じられる。

また、四つ目の要因として考えられるのは、親の価値観の変化ではないだろうか。小学校高学年～中学生にあたる、今のローティーン世代が生まれたのは1988年～1994年である。つまり、彼女たちの両親は40歳前後のバブル世代が中心であることから、彼女たちは「バブルジュニア」とも呼ばれている。母親であるバブル世代の女性は、好景気を背景にモノにあふれた青春時代を過ごし、ファッションにも相当のこだわりを持っている。バブルジュニアのファッションや化粧市場には、こうした母親層の価値観が大きく影響しているのではないだろうか。

このような社会的背景によって、小学生でも化粧に関心をもち、最新のファッションやヘアスタイルなどに敏感になり、小学生の女の子たちの間で、外見にこだわる化粧やおしゃれに興味を持つ子が多くなったと考えられる。また、化粧に関心を持つ子が多くなったから、雑誌も今までよりもさらに多く、化粧やファッションを取り上げるようになってきたのではないだろうか。

まとめ

学年別学習雑誌にみる女の子と男の子には、さまざまな違いがみられ、それぞれの性別で興味があることや、好まれる内容が異なっているということが言えた。また、友人関係の築き方の違いなど、人間関係におけるそれぞれの性別

の特徴などもみることができた。それぞれの特徴を一言で表すと、女の子は「親密」で、男の子は「競争」である。女の子は友人関係を築く上で、友人と親密になることに価値を置くため、お互いが理解し合えるよう自ら悩みや秘密を打ち明け、精神的な繋がりを大切にする傾向がある。女の子向けのふろくにあった交換ノートは、女の子が親密になれる要素を多く含んでおり、女の子の特徴を上手く取り入れた便利なアイテムである。これとは逆に、男の子は親密さよりもグループ内の序列などに関心がいくため、たとえ友人同士であってもお互いを競争相手としてとらえ、スポーツや趣味など一緒に活動を通して競い合いながら、仲を深めようとする。このように女の子と男の子では、友人関係を築く場合、それぞれ価値を置くものが異なるため、築いていく方法も性別によって特徴があるのであった。

このように、女の子と男の子では興味、好み、人間関係の築き方などが異なるため、それぞれを対象とした内容には多くの違いがみられる。そして、それらの違いの中には、女の子はおしとやかで守られる存在、男の子は強くてたくましいというジェンダー・ステレオタイプがみられるものもあり、それをもとにして描かれた内容のものがこの学年別学習雑誌には多くみられた。また、女の子向け、男の子向けの両方の内容を盛り込んでいるからこそ、男の子も女の子も読むことができ、性別による極端な読者の偏りがなくなるのであろう。

最後に、本論文では2005年現在の雑誌の中にみる女の子と男の子しか考察出来なかったもので、昔と現在の雑誌の比較など、数年にわたる調査や研究をしてみることが今後の課題であろう。

資料一覧

伊藤公雄 1996『男性学入門』作品社

サイモン・バロン＝コーエン 三宅真砂子（訳）2005『共感する女脳、システム化する男脳』日本放送出版協会

佐野幸子 1996「親密なふたり」宗方比佐子・佐野幸子・金井篤子（編）『女性が学ぶ

- 社会心理学』福村出版 pp. 128-
- 住田正樹 1999 「こどもは仲間集団によって育つ」日本子ども社会学会（編）『いま、子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 pp. 40-
- 本田和子 1999 『変貌する子ども世界』中公新書
- 横森里香 1999 『恋愛は少女マンガで教わった』集英社文庫
- 小学館「Shougakukan online」, <http://www.shougakukan.co.jp/main/company/>, 2006, 10
- 読売テレビ「名探偵コナン（アニメ版公式ホームページ）」<http://www.ytv.co.jp/conan/charasyo/charasyo.html> 2006, 10
- 株式会社セガ「甲虫王者ムシキング公式ホームページ」<http://www.mushiking.com/whats/index.html> 2006, 10
- ヨミウリ・ジュニア・プレス「ヨミウリ・ジュニア・プレス」http://www.yomiuri.co.jp/junior/articles_2002/020310.htm 2006, 10
- 株式会社ベネッセコーポレーション「Benesse 教育研究開発センター」<http://benesse.jp/berd/center/open/syo/>, 2006, 9
- 株式会社 Beauty Business「kirei-nandemo.com きれい・なんでも」<http://www.kirei-nandemo.com/mainroom/sinsou/0207/020700.html>, 2006, 10